

# 1. 評価報告概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	2470501541
法人名	地域ケア企業組合
事業所名	グループホーム とのむら
所在地 (電話番号)	津市殿村井戸1553番地 (電話) 059-237-3450
評価機関名	三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 19 年 10 月 11 日(木)

## 【情報提供票より】 (H19年9月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 1 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤 8人, 非常勤 13人, 常勤換算 7.5人	

### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨平屋 造り		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	A58,800/B60,900 円	その他の経費(月額)	15,750 円	
敷金	有( 円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	(有) 150,000 円 無	有りの場合 償却の有無	(有) / 無	
食材料費	朝食	315 円	昼食	472 円
	夕食	473 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

### (4) 利用者の概要( 9 月 1 日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	2 名	要介護2		3 名	
要介護3	7 名	要介護4		4 名	
要介護5	2 名	要支援2		0 名	
年齢	平均 83.4 歳	最低	71 歳	最高	94 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	永井病院 村田歯科クリニック
---------	----------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

認知症ケアの知識度の高い職員でもってケアに取り組まれている。利用者の事業所での生活を支援するのみでなく、自立した暮らしを支える支援がされ在宅へ復帰された利用者・家族と交流をもち在宅で安心して過ごせる支援がされている。医療機関との連携も良く、終末期・見取りにも職員が共有され家族・本人とも話し合い、4人の看取りもされている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回指摘があった居室引戸に透明ガラスがあり室内が見通せることについて利用者と相談され希望される利用者には、居室入口に好みに合ったのれんをつけて改善されている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価には全職員で取り組み職員からの意見を事業所のサービス向上につなげている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>5ヶ月に1回の開催ではあるが代表者が地域での役職を勤められ、常時地域の会合には参加され、地域住民との関係は作られている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>訪問時に声かけを積極的に働きかけ、苦情・希望・意見を聞かれ運営に反映されている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>事業所での理美容訪問時には地域の人々にも働きかけ利用されている。料理教室の参加もしていただいている。</p>

## 2. 評価報告書

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	笑顔・感謝・敬愛を理念に、地域の中で共に暮らせる精神の大切にと作り上げ重要事項説明書にも明記している。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は理念を共有され実践に日々組み込まれ、理念を名札や勤務表にも明示され共有されている。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事などには地域の一員として参加され事業所での催しには誘いかけ交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義・目的を全職員が理解され職員からの意見が事業所を見直す良い機会にもなりよいケアにつながっている。前回の改善事項にも全員で検討されクリアしている。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	5ヶ月に1回開催されており、直近では6月に地域の自治会長・老人会長・市担当者・利用者及び家族の代表の出席のもと、運営状況の報告及び災害時の地域と連携等について活発な意見交換がされている。	○	今後は地域代表者等の協力のもと、法令で定める概ね2ヶ月に1度以上の開催を目指し、活動状況の報告及び必要な要望・意見等を聞く機会の頻度を上げられることを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者からの入居に対する相談や依頼もあり、又、認知症対応型デイサービスの指定準備等を通じて連携している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	とのむらたより・家族への手紙・行事予定・小遣い残金等の報告を1ヶ月に1回定期的に家族に送っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会も多く訪問時には意見や希望を傾聴し事業所の運営に反映されている。意見箱も玄関に設置している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者(管理者含む)は常に勤務体制の見直し等労働管理の改善に取り組み、職員が働き甲斐を持って働き続ける職場作りを心がけている。また新職員には早く利用者馴染めるよう指導している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修はもとより、外部研修の情報案内とその機会を作られ働きながらトレーニングしていることを勧めている。	○	現在勧められている自己啓発による研修参加や資格取得の奨励を継続推進され、よりケアレベルの向上を目指されることを期待する。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会(全国・三重県)に入会され連携し、市内のグループホームと利用者のコンサートを開かれたこともある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
	12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族の相談から本人の見学・希望があれば体験入居も可能であり、本人の安心・納得のもとで入居される工夫をされている。馴染みながら入居された利用者もある。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
	13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一緒に暮らすうちにお互いの思いが分かるようになり職員へのいたわり、励ましてもらったり、支えあう関係ができています。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
	14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は日々の関わり合いの中で一人ひとりの希望・意向を把握する努力をされている。入浴を一番風呂のこだわりにも本人本位に努めている。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
	15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の思いや意見・希望を取り入れ、介護計画が作成されている。	
	16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	職員全員で意見交換やモニタリング、カンファレンスを行い、3ヶ月に1回必ず見直しを行って作成されている。	

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	外出・外泊・家族の宿泊にも、その時々々の要望に応じられ在宅復帰をされた。利用者にもできる限り支援されている。	○	事業所開設三周年を目前にされ、認知症対応型デイサービスの併設開始へ向けて多機能性を活かしていただくよう期待する。
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療機関との連携により医療への関係を築かれ適切な医療が受けられる支援がされている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化となられた場合早い段階で本人・家族・かかりつけ医と話し合い、全職員で共有され本人にとって何が一番良いかの話し合いを行っている。	○	看取りに関する指針も明示され過去に4人の利用者の看取りをされている。毎回反省会もされ看取られた家族と今でも交流されている。今までの経験を活かし看取りへの取り組み、家族との話し合いを繰り返していただくことを期待する。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの誇りや生活歴を把握され自尊心を損ねることのない支援をされている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの希望を優先にして希望にそった支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	重度化にともない調理は難しくなり食材の下ごしらえなど利用者の力を活かしながら、職員と一緒に準備され食材を話題に楽しく食事をされている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日は定めず毎日入浴ができる仕組みがされていて一人ひとりの希望に合わせて楽しめるよう支援している。一番風呂希望の支援をされている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	地域の詩吟教室へ行かれる利用者や書道を事業所で書く事への楽しみ等、気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	戸外への散歩・寺などへ可能な限り出かけ、散歩途中での地域の人々からの声かけに喜びを感じられる支援をされている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員全員は鍵をかけることの弊害を理解され、日中は鍵をかけることはしていない。居室の掃き出しも開閉が自由である。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災には日頃から迅速に戸外へ出れるよう心がけている。事業所は日頃から地域の人々の協力が得られるように働きかけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの栄養バランス・水分量が一日を通じて確保できるように非常勤の栄養士がカロリー計算もされ月2回食事担当会議で常に利用者の状況に応じた支援をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間である食堂と調理場が一体になり調理する職員と話しながら生活感や季節感を感じ居心地良く過ごせる工夫がされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッド・カーテンなど持ち込まれ使い慣れたものや趣味の物品が置かれ、本人が居心地良く過ごせるよう工夫をしている。		